

|   |   |
|---|---|
| <h1 style="font-size: 48px; margin: 0;">会報</h1> | 第125号   |
|   | 令和4年10月28日  |
|   | 新潟県特別支援教育研究会事務局<br>新潟市中央区白山通1-207-3<br>新潟市立鏡淵小学校内 |
|   | Tel 025 (265) 4111<br>Fax 025 (265) 4112          |
|   | 発行：文久堂  |

## 特別支援教育の 充実を目指して



新潟県特別支援教育研究会  
会長 江口 滋

2020年6月、東京、国立駅の一角にオープンした大手コーヒーチェーン店があります。国内初のサイニングストアです。サイニングストアとは、手話を共通言語とした店舗のことです。この店には聴覚に障がいのある方々が従業員として働いています。聴者と聴覚に障がいがある者が共に働き、多様な人々が自分らしく過ごして活躍できる居場所の実現を目指しているそうです。今年6月、私もこの店舗に立ち寄りました。明るく広い店内には、笑顔とまっすぐな視線でお客様に対応する誠実な従業員の姿がありました。音声による会話はありません。代わりに、手話や透明マスクによる口の動きで懸命に対応する姿から、心のコもった温かさが伝わってきました。従業員の約8割が聴覚に障がいのある方とのことでしたが、いきいきと働く様子はとてもすてきでした。これまでの学びを活かし、持てる力を発揮して社会に貢献する姿に未来への明るい光を感じました。

さて、昨年中央教育審議会から示された『令和の日本型教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～では、子供たちに育むべき資質・能力として次のように掲げています。「一人一人の児童生徒が、自分の

よさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となることができるようにすることが必要である。」このことは、特別な支援を必要とする児童生徒にも言えることです。また、特別支援教育における「子供の学び」の実現に向けて目指すこととして、①全ての教育段階において、インクルーシブ教育システムの理念を構築することを旨として行われ、全ての子供たちが適切な教育を受けられる環境の整備、②障害のある子供とない子供が可能な限り共に受けられる条件整備、③障害のある子供の自立と社会参加を見据え、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備の3点を掲げています。今後これらを推進し、多様な学びの場で質の高い教育を行うために重要なことは、教師の専門性の向上です。

特別支援教育を受ける子供は毎年増加しています。それに伴い特別支援学級や通級指導教室の学級数も増加しています。初めて特別支援学級や通級指導教室を担当する教師も増えており、県内の特別支援教育担当者全体のおよそ半数が経験3年以下の教員です。これらを踏まえながら、新潟県特別支援教育研究会としても特別支援教育を巡る状況と基本的な考え方に基づく方策の円滑な実現に向けて取組を進めていきたいと考えています。

当研究会は、県内の特別支援学級及び通級指導教室設置校の教職員の皆様によって構成されています。研修会や講演会等を通して、新しい時代の特別支援教育の実現に向けた教育活動にかかわる情報を共有できれば幸いです。今年度も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、各種研修会等の評価、改善を進めたいと考えています。今後も会員の皆様や関係機関の皆様との連携を密に取りながら、特別な支援を要する児童生徒への教育の充実を目指してまいります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

### 令和4年度 主な事業について

#### ○理事会・評議員会

- 第1回理事会・評議員会  
(オンラインによる協議・決議)
- 第2回理事会・評議員会  
(2月にオンライン開催を予定)

#### ○研究大会

- ・上越地区北部大会 (8月5日実施)
- ・中越地区長岡大会 (11月29日実施予定)
- ・下越市区新潟市大会 (11月25日実施予定)
- ・佐渡地区大会 (今年度は開催なし)

#### ○研究部会研修会

- 知的障害部
- 自閉症・情緒障害部
- 肢体不自由・病弱・身体虚弱部
- 言語・難聴部
- 視覚障害部
- 特別支援学校部

#### ○全特連関係

- ・全日本特連全国大会秋田大会(誌上開催)
- ・関東甲信越地区大会長野大会  
(オンライン開催)

#### ○会報

- ・125号 (10月)
- ・126号 (3月)

## 特別支援教育の最近の動き



県教育長義務教育課  
特別支援教育推進室  
室長 山田 澄人

### 1 はじめに

会員の皆様には、本県の特別支援教育の推進に、ご尽力いただいておりますことに感謝申し上げますとともに、新型コロナウイルスの感染防止対策の徹底に取り組んでいただいていることに、心からお礼申し上げます。

### 2 国の特別支援教育に係る動向

障害児を通常の教育から「分離」しているとして現状の特別支援教育をやめるよう、国連が日本政府に強く要請しました。

国連の障害者権利委員会は、同条約に基づく対応を確かめる「対日審査」を実施し、審査結果として報告書を公表しました。

報告書では、「障害のある児童生徒が、特別支援学校や特別支援学級に分離されることで通常の教育を受けにくくなっている」と懸念を表明し、現状の特別支援教育をやめるよう、日本政府に強く求めた内容となっています。

また、文部科学省が本年4月に特別支援学級に在籍する児童生徒が、通常の学級で学ぶ時間を半分以上に留めるよう求めたことに対しても通知の撤回を要請しています。

このことを巡り、永岡文部科学大臣は、国連の要請に対して「特別支援教育を中止することは考えていない」と慎重な考えを示し「障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に過ごせるように、財政支援などに取り組んできた。勧告の趣旨を踏まえ、引き続きインクルーシブ教育システムの推進に取り組みたい」と述べました。

今後、国の動向を注視するとともに、これまで取り組んできたインクルーシブ教育システムについて、改めてその趣旨を確認し、取組を進めていくことが、現段階では大切だと受け止めています。

### 3 県の特別支援教育の現状と課題

再三お伝えしていますように、全国的に特別支援教育を受ける子供たちの増加が続いています。特に、特別支援学級や通級による指導を受けている子供たちが急増していることはご承知

のとおりです。

新潟県においては、特別支援学級に在籍する児童生徒の割合が全国的に高い状況にあり、その中身を見ると、半分以上の授業を通常の学級で過ごしている児童生徒が一定程度見受けられます。通常の学級内で障害の特性に応じた支援が十分に行われていない児童生徒もいるのではないかと憂慮しています。また、中学校特別支援学級から高等学校への進学率は年々上昇しており、中でも自閉症・情緒障害学級からの進学率は昨年度末76%に達しました。そもそも特別支援学級の対象ではない生徒が在籍しているのではないかと懸念もしています。

このような傾向が続いていることから、県教育委員会では、市町村教育委員会に対し、適正な就学判断と適切な教育課程の編成を、繰り返しお願いしてきたところです。

そのような中、今年度、新潟県（新潟市を除く）では、統計開始以来、初めて自閉症・情緒障害学級と在籍者が減少に転じました。

全体的に児童生徒が減少していることが影響していると思われませんが、これまで自閉症・情緒障害学級判断だった児童生徒が、発達障害通級又は通常学級判断となるケースが少なからず見受けられ、そのことも減少につながった要因と考えています。

このことは、インクルーシブ教育システムの構築に向け、「障害のある子供と障害のない子供が可能な限り同じ場で学ぶこと（略）」の具現化に、市町村教育委員会や学校が、真摯に取り組んできた結果だと推察しています。そして、このことが通級指導教室の増加につながり、さらには、通常学級の特別支援教育に直結することになっています。このようなことから、一層、通常学級担任の特別支援教育に係る専門性の向上が求められることとなります。

大切なことは、一人一人の児童生徒が、それぞれの学びの場で、授業内容が分かり、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかどうかであり、これが最も本質的な視点です。是非、会員の皆様には、各人のおかれた立場で、特別支援教育の推進に、一層ご尽力いただきますようお願いいたします。

### 4 おわりに

新型コロナウイルス感染者数は減少傾向にありますが、秋以降の流行の再燃も懸念されています。改めて気を引き締め、感染拡大防止と学びを止めないこと、そして、ご自身の健康に留意しながら、本県の特別支援教育を、共に推進してまいりましょう。

## 令和4年度 県特支研 役員

※敬称略

|                |                  |                  |                   |
|----------------|------------------|------------------|-------------------|
| 会 長            | 江口 滋 (鏡淵小)       |                  |                   |
| 副 会 長          | 泉 豊 (南本町小)       | 山崎 睦子 (裏館小)      | 阿部 隆一 (新潟市立東特別支援) |
| 理 事            | 村治 隆夫 (新井中央小)    | 山賀 吉一 (田尻小)      | 五十嵐恵一 (千手小)       |
|                | 吉田 孝則 (今町小)      | 竹垣 雅彦 (北辰小)      | 田中 恒夫 (新津第五中)     |
|                | 間嶋 哲 (新津第一小)     | 根岸 恵美 (万代長嶺小)    | 田中 修二 (女池小)       |
|                | 井上 正裕 (外ヶ輪小)     | 本間 薫 (岩船小)       | 山崎 浩志 (五泉小)       |
|                | 長尾 謙治 (佐和田中)     | 小林 俊明 (はまなす特別支援) |                   |
| 月岡 秀也 (見附特別支援) | 佐々木裕一 (西蒲高等特別支援) |                  |                   |
| 会計監査           | 富永 浩文 (糸魚川小)     | 内藤 貴志 (新町小)      | 鈴木 正彦 (水原小)       |

## 令和4年度 県特支研 評議員

※敬称略

|         |                            |         |                            |
|---------|----------------------------|---------|----------------------------|
| 上 越     | 長谷川和彦 (飯小)<br>勝俣 将明 (八千浦中) | 柏崎・刈羽   | 廣川 乗 (日吉小)<br>須藤 泰司 (西山中)  |
| 糸 魚 川   | 田原 早苗 (大和川小)               | 妙 高     | 飯塚 教裕 (斐太北小)               |
| 長岡・三島   | 菊地亜弥子 (栖吉小)<br>菊地 雅樹 (大島中) | 三 条     | 坪谷 秀雄 (長沢小)<br>土田 栄林 (第一中) |
| 燕・弥彦    | 細貝 岳 (燕西小)                 | 加茂・南蒲   | 平野 政幸 (葵中)                 |
| 見 附     | 稲田 修 (名木野小)                | 小千谷     | 稲田真砂美 (小千谷市立総合支援学校)        |
| 十日町・中魚  | 山川 和子 (川治小)                | 魚 沼     | 江田 浩 (広神西小)                |
| 南 魚 沼   | 井口 秀夫 (湯沢中)                | 新 発 田   | 澁谷 一男 (猿橋小)                |
| 北 蒲     | 六井 和幸 (蓮野小)                | 胎 内     | 鈴木 真史 (きのと小)               |
| 村上・岩船   | 村山 敬介 (関川中)                | 五 泉     | 永倉 浩二 (五泉北中)               |
| 阿 賀 野   | 阿部 順延 (堀越小)                | 東 蒲 原   | 高松 豊 (津川小)                 |
| 佐 渡     | 安藤 博通 (加茂小)                | 新潟・北区   | 坂内 徹 (南浜小)                 |
| 新潟・東区   | 藤井 正人 (江南小)                | 新潟・江南区  | 岡田 義則 (早通小)                |
| 新潟・江南区  | 橋本 一幸 (曾野木中)               | 新潟・秋葉区  | 渡辺富美子 (新津第二小)              |
| 新潟・南区   | 和泉 哲章 (白南中)                | 新潟・南区   | 五十嵐重行 (新飯田小)               |
| 新潟・中央区  | 鈴木 勉 (山潟小)                 | 新潟・西区   | 青木 清美 (山田小)                |
| 新潟・西蒲区  | 堀川 善行 (升潟小)                | 視 覚 障 害 | 岡村 浩之 (新潟よつば学園)            |
| 聴 覚 障 害 | 西山 正樹 (県立長岡聾)              | 病 弱     | 生方 清司 (県立吉田特別支援)           |
| 肢体不自由   | 中静 康弘 (県立上越特別支援)           | 知 的 障 害 | 疋田 敦士 (新大附属特別支援)           |

# 県特支研のホームページをご覧ください

県特支研の役員、事業、会報などの情報  
や特別支援学校へのリンクはこちらです。

地区大会や研究部研修会の情報はこちら  
から。

全特連関プロ大会等の様子を紹介します。  
全特連HPへリンクされています。その他、  
新潟県の特別支援教育に関する情報をお伝  
えます。

URL <http://www.niigata-inet.or.jp/kentokusiken/>

E-mail [tokusi@niigata-inet.or.jp](mailto:tokusi@niigata-inet.or.jp)

# 令和4年度 各研究部研修会の活動報告

## 自閉症・情緒障害部 事務局：長岡市立千手小学校

今年度は、早稲田大学教授の本田恵子先生より「発達障害のある子どもへのアンガーマネジメント」と題して講演をしていただきました。感情が高ぶり、攻撃的な言動をとる子どもに対し、その気持ちを受け止め適切な行動へと変容させる方法を学びました。オンラインで実施し670名の参加者があり、98%を超える方から「満足」の回答を得ました。「切れるという現象の背景には伝えたいメッセージがある」「要求を受け入れるのではなく、気持ちを受け入れる」等々心に残る言葉がたくさんある研修会でした。

## 知的障害部 事務局：新潟市立新津第一小学校

新潟市障がい者ITサポートセンター代表、新潟大学教育研究院自然科学系特任講師 山口俊光様より、「特別支援教育とICTの活用～知的障がいの視点から～」というテーマでご講演いただきました。読み書きの困難等様々な場面に対応したiPadの多様な使い方・使わせ方、特性に応じて活用できるアプリや教具を数多く紹介していただき、今後の支援の指針になりました。また進路に関わる最新情報とともに「真の自立とは、適切な依存先を多くもつこと」と示唆と長期的な支援の方向性をお示しいただきました。

## 言語・難聴部 事務局：新潟市立万代長嶺小学校

大阪医科薬科大学LDセンターの奥村智人様より「読み書きを育てるビジョントレーニング」というテーマでZoomを用いてご講演をいただきました。

近年、通級指導教室でも対応することが増えてきている「発達性ディスレクシア」について、専門的な立場からお話をいただきました。読みの苦手さ、書きの苦手さにも様々な要因があり、それを丁寧にアセスメントし、実態に応じた支援をしていくことが重要であると教えていただきました。具体的な指導方法や教材もご紹介いただき、すぐに実践につながる有意義な研修会となりました。

## 視覚障害部 事務局：新潟よつば学園

愛知教育大学准教授の青柳まゆみ様より「視覚障害のある児童生徒の主体的・対話的で深い学びを目指した指導について」の演題でご講演をいただきました。視覚障害の自身の経験も踏まえて、子どもの側からの教師の指導支援のあり方について、指導がありました。主体的な実体験に基づき言語やイメージを構築することで、そこから対話が生まれ深い学びにつながるよう計画的、継続的な指導をする。そのためにも、核になる体験を通して、子どもに主体的な情報収集の習慣を付けることの大切さを学びました。

○今年度の肢体不自由・病弱・身体虚弱部（事務局：見附市立今町小学校）の活動は、主にリーフレット作成となりました。

県特支研だよりNo.「125号」をお届けいたします。お忙しい中、多くの皆様から玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が特別支援教育の一助となることを願っております。（事務局）